

## 特選

### バスケットボール選手になるために

本巢市立本巢小学校 六年 中西 珀互

「珀互、シュート！」

体育館に拍手が響き渡った。

「珀互、さすが！」

体育の授業で行ったバスケットボールの試合で、ぼくはヒーローになった。仲間から受け取るどんなパスも、確実にシュートできる自信があった。

「やつぱり珀互は、バスケうまいな。」

ぼくは誰にも負けない。自然界で例えると、百獣の王の「ライオン」になった気分だった。

ぼくは、今、バスケットボールクラブチームに所属し、練習している。練習はとてもきつい。でも、ぼくは、バスケットボールが大好きだ。クラブチームの練習が終わると、お父さんと反省会をする。家で一緒にトレーニングもしている。六年生になった今、将来、プロのバスケットボール選手になりたいという気持ちが強くなった。

土日は、クラブチームの試合がある。体育の授業で行う試合とは違って、コートの中は緊張感でいっぱいだ。互いの選手同士がぶつかり合い、にらみ合う。ディフェンス中は、ファールぎりぎりのところまで、相手選手に迫っていくぼくに、相手からの反撃がくる。

ある試合で、ぼくは、ファールに苦しんだ。試合に勝つために、敵に立ち向かっていったら、四回もファールをしてしまった。コーチがぼくを見ている。どうしようと弱気になってしまい、思うように動くことができなくなった。

ハーftime中、

「審判から見たら、珀互が相手の腕をつかんでいるように見えるだけだよ。」

そう言つて、コーチは、相手の腕をつかんでいるように見えないディフェンスの仕方を教えてくれた。ぼくは、汗を拭くように、流れてく

る涙を拭きながら、コーチの話を真剣に聞いた。

試合が再開した。ぼくは、新しいディフェンスの技を使って、相手に立ち向かった。しかし、うまくディフェンスができなかった。何度も挑戦するが、できなかった。そのうち相手をディフェンスすることが怖くなった。相手をよけてしまった。百獣の王「ライオン」は、「ライオン」から逃げ回る「ウサギ」になってしまっていた。

「珀互！強気で行け！」

コーチの声にはっとした。

「珀互、前、前、さがるな！」

仲間からの声に勇気をもらった。ぼくは、何度も新しい技で、相手を押し込むことに挑戦した。何度目かのディフェンスが成功したとき、ベンチから歓声があがった。

「やったぞ！」

ぼくの心に勇気がふつふつと湧いてきた。

その後も、ぼくは何度も相手に立ち向かっていった。失敗してもあきらめずに、何度もディフェンスし続けた。

試合後、

「珀互は、体力が無いな。」

コーチにそう言われた。実際、ぼくは、ディフェンスをしているとき、すぐに息が上がってしまっていた。だから、夏休み中、ラジオ体操の後、五分間のランニングを続けた。お父さんと一緒に、トレーニングも続けた。コーチに教えてもらった、新しいディフェンスの技を磨いた。

今、冬の大会に向けて、ディフェンスもオフenseも、誰よりもうまくなると決めて、練習を続けている。もちろん、体力をつけるために、ランニングやトレーニングを続けている。そして、食事にも気を付けている。

バスケットボールの試合中、どんな状況になっても、強い心で前へ攻めていくことができる選手になりたい。コートの中で、百獣の王「ライオン」であり続けたい。そうなることが、ぼくがプロのバスケットボール選手になる近道だと考える。